

英仏の形容詞修飾構造

小林 摩耶

Abstract

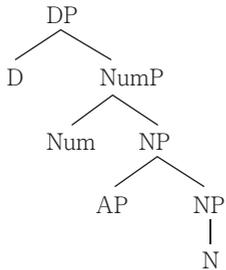
In this paper, we analyze a syntactic structure of attributive adjectives (*épithète*) in French by the previous study, Cinque (2010). Cinque (2010) analyzed the phenomena of adjectival modifications in Italian (Romance) with the universal structure via NP-movement and snowballing-movement. We hypothesize that adnominal adjectives in French are direct modification in a hierarchical order including quantity, quality, and size, and postnominal adjectives in French are indirect modification including quality, size, shape, color, and nationality. Moreover, we propose that quality and size are lower than shape, color and nationality in a reduced relative clause. We can analyze the structure of French adjectival modifications without optional NP-movement in direct modification AP and snowballing-movement. Finally, we propose that quality and size must be either in a reduced relative clause from some syntactic phenomena.

1. はじめに

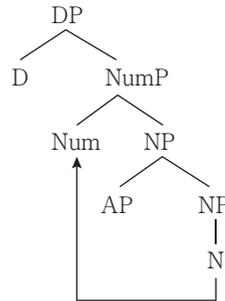
形容詞が名詞を修飾する時、一般的に英語は（前置）形容詞＋名詞、フランス語は名詞＋（後置）形容詞の語順になる。英語で名詞を修飾する形容詞を限定形容詞（attributive adjective）、フランス語では付加形容詞（*épithète*）という。生成文法では、1990年代 Bare Phrase Structure 理論において、Cinque (1994) が DP (Determiner Phrase) 構造¹から形容詞修飾

構造を移動によって分析した。N 移動分析とは、DP の下位に位置する強い Number Phrase² という機能範疇が存在し、その機能範疇に名詞を移動させるという分析である。

(1) a. 前置形容詞



b. 後置形容詞



(1a)のように英語の前置形容詞では名詞は移動せず、(1b)のように英語の後置形容詞では名詞が Number に移動する。現在においても、形容詞修飾構造を移動で分析する基礎となっている。

本稿では Cinque (2010) が仮定するゲルマン語系の英語とロマンス語系のイタリア語の普遍的な形容詞修飾構造から、フランス語の形容詞修飾構造を検証する。本稿は、以下のように構成されている。2章では、先行研究である Cinque (2010) による英語の形容詞修飾構造の分析について見ていく。3章では、Cinque (2010) が仮定するロマンス語系の形容詞修飾構造と派生をフランス語から検証し、フランス語における派生の問題点を指摘する。4章では、Sproat and Shih (1991) が仮定する形容詞の階層性に従い、フランス語の形容詞について加筆したものとして、フランス語の前置形容詞は quantity, quality, size を表す形容詞で、意味的階層性があり、後置形容詞は quality, size, shape, color, nationality を表す形容詞で、quality と size は shape, color, nationality より統語的に低い位置にあると仮定する。このような仮説からフランス語の形容詞修飾構造を再考すると、Cinque

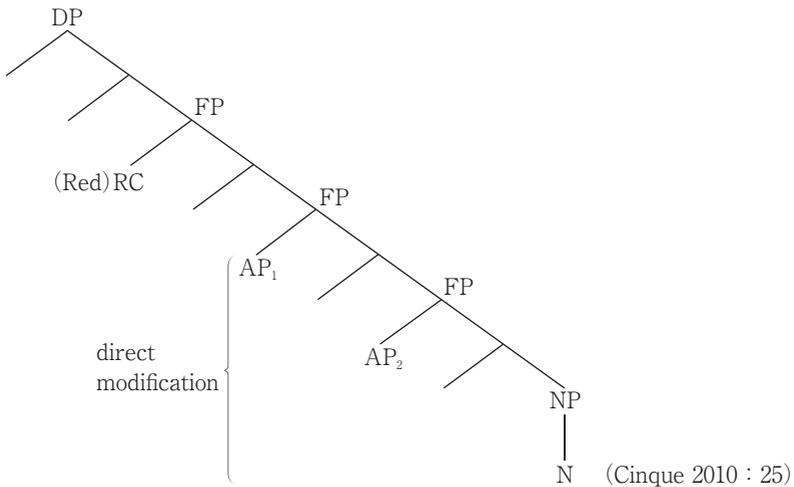
(2010) が仮定する direct modification AP における任意の NP 移動と snowballing 移動は、必要性がないと主張する。さらにフランス語のいくつかの統語的現象から quality と size が、後置形容詞ではどちらか一方に限られると提案する。5章は、結論である。

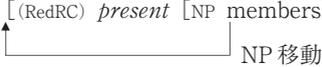
2. 英語の形容詞修飾構造

Cinque (2010) において N 移動分析を NP 移動分析と修正し³、ゲルマン語系の英語とロマンス語系のイタリア語の形容詞修飾構造を分析し、普遍的な形容詞修飾構造を仮定している。Cinque (2010) は意味解釈の違いに基づき、形容詞句を direct modification と indirect modification という概念に分けて分析している⁴。

Cinque (2010) は、(2)のような普遍的な形容詞修飾構造を仮定している。

(2)



- (3) a. a *beautiful big red* ball
 b. [DP a [AP1 *beautiful* [AP2 *big* [AP3 *red* [NP ball]]]]]
- (4) a. the members *present*
 b. [DP the [(RedRC) *present* [NP members]]]
 NP 移動

複数の前置形容詞が名詞に前置する構造は、(3b)の統語構造となる。(4b)のように後置形容詞は reduced RC (reduced relative clause) にあり、NP が reduced RC の指定部へ NP 移動すると分析している。

Cinque (2010) は(2)のように普遍的な形容詞修飾構造を仮定し、NP 移動でゲルマン語系言語の形容詞修飾構造を説明できるとしている。英語の形容詞修飾構造の分析として、direct modification と indirect modification に意味解釈を分けて、さらに DP 構造内において indirect modification は AP from reduced RC、direct modification は direct modification AP という統語的に違う位置に現れると分析している。

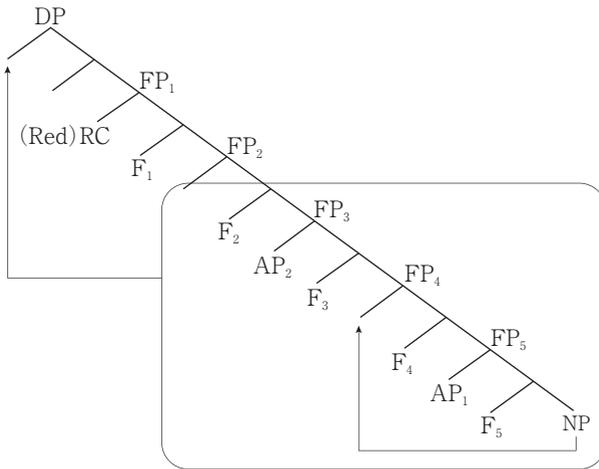
3. フランス語の形容詞修飾構造

Cinque (2010) は、ロマンス語系のイタリア語で形容詞修飾構造を統語的、意味的に分析している。本章では、フランス語から Cinque (2010) が仮定する形容詞句修飾構造を見ていき、フランス語の派生における問題点を指摘する。

3.1 Cinque (2010) におけるロマンス語系の形容詞修飾構造

Cinque (2010) は、ロマンス語系の形容詞修飾構造も(2)のようにゲルマン語系の形容詞修飾構造と同じであると仮定している。ロマンス語系言語では、(5)のように direct modification AP において任意の NP 移動が起こると分析している⁵。

(5)



(Cinque 2010 : 37)

(6) a. un *joli* *gros* ballon *rouge*
 ART.INDEF.MSG beautiful.MSG big.MSG ball red.MSG
 'a beautiful big red ball'

b. [DP un [AP3 *joli* [AP2 *gro* [AP1 *rouge* [NP ballon]]]]]
 ↑ NP 移動

(6a)の派生は、(6b)である。Direct modification AP において NP 移動し、NP は AP₁ の指定部へ移動する。

次に Cinque (2010) は、英語の前置形容詞の語順に対して mirror-image となる語順を、snowballing 移動から分析している。Lamarche (1991) は、(7)のような mirror-image の語順を N 移動では分析できない語順として指摘している。

(7) Lamarche (1991) の mirror-image の語順

英語の前置形容詞の語順に対して、フランス語の後置形容詞の語順は

鏡のように反対になる。

- (8) a. un fruit [*orange*]₁ [*énorme*]₂
 ART.INDEF.M.SG fruit orange.M.SG huge.M.SG
 ‘a huge orange fruit’

b. [*huge*]₂ [*orange*]₁ fruit

- (9) a. une femme [*canadienne*]₁ [*enceinte*]₂
 ART.INDEF.FEM.SG woman Canadian.FEM.SG pregnant.FEM.SG
 ‘a pregnant Canadian woman’

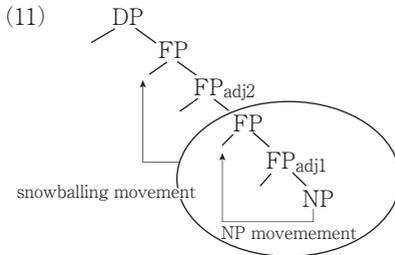
b. [*pregnant*]₂ [*Canadian*]₁ woman (Lamarche 1991 : 223)

(8a)と(9a)のようにフランス語で後置形容詞の語順が NP + AP₁ + AP₂ であるとき、(8b)と(9b)のように英語では前置形容詞の語順が AP₂ + AP₁ + NP となる。

Lamarche (1991) が指摘したフランス語の mirror-image の語順を N 移動では分析できないため、Laenzlinger (2005) はフランス語の複数の形容詞を含む名詞句の分析から、(10)のように snowballing 移動を仮定し、その派生は(11)である。

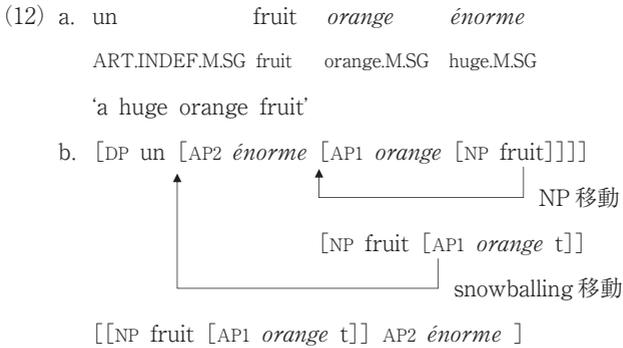
(10) Snowballing 移動

最初 NP は FP_{adj1} の指定部へ NP 移動し、次に NP は AP₁ を付随し、FP_{adj2} の指定部へ snowballing 移動する。



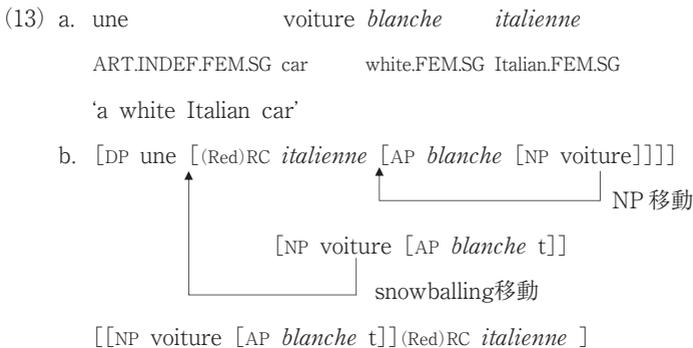
(Laenzlinger 2005 : 662)

Cinque (2010) はロマンス語系言語の形容詞修飾構造において、mirror-image となる語順を、(12)のように NP 移動と snowballing 移動で分析している。



(12a)の派生は、(12b)である。NPはAP₁の指定部へNP移動し、NP + AP₁はAP₂の指定部へ snowballing 移動する。

最後に Cinque (2010) はロマンス語系言語の後置形容詞が、英語とフランス語で mirror-image にならない時、最も右にある後置形容詞は reduced RC にあり、NP 移動と snowballing 移動で分析している。



(13a)の派生は、(13b)である。NPは direct modification AP の指定部へ NP 移動し、NP+AP は reduced RC の指定部へ snowballing 移動する。

Cinque (2010) は、ロマンス語系言語においてもゲルマン語系言語と同じ形容詞修飾構造を仮定し、(6b)、(12b)、(13b)のようにNP移動と snowballing 移動でフランス語の形容詞修飾構造を分析している。

3.2 Cinque (2010) が仮定するフランス語の形容詞修飾構造と派生の問題点

2章と3.1節において Cinque (2010) はゲルマン語系言語とロマンス語系言語は、普遍的形容詞修飾構造とNP移動は同じであると仮定している。ゲルマン語系とロマンス語系言語の違いは、ロマンス語系言語では direct modification AP における任意のNP移動と snowballing 移動する点である。2つの問題点を指摘する。

第1に、Cinque の仮定するロマンス語系言語の direct modification AP において、NP移動が起こる場合と起こらない場合がある。例えば、フランス語では(6b)において direct modification AP に複数の前置形容詞があるが、AP₁の指定部へのNP移動は起こるが、AP₂とAP₃には起こらない。

第2に、(6b)のように direct modification AP における形容詞のNP移動が任意であると仮定すると、フランス語では(15)のように別の派生も考えることができるという問題点がある。

- (14) = (6a) un *joli* *gros* *ballon rouge*
 ART.INDEF.M.SG beautiful.M.SG big.M.SG ball red.M.SG
 'a beautiful big red ball'
- (15) [DP un [(Red)RC *rouge* [AP₂ *joli* [AP₁ *gros* [NP *ballon*]]]]]
- ↑
 └──┘ NP 移動

(14)において後置形容詞である *rouge* 'red' が reduced RC にあり、direct

modification AP にある $AP_2 + AP_1 + NP$ は、NP 移動するという派生も可能である。

4. 提 案

本章ではフランス語の形容詞修飾構造において、Sproat and Shih (1991) が仮定する形容詞の階層性に従い、フランス語の形容詞について加筆したものととして、フランス語の前置形容詞は quantity、quality、size を表す形容詞で、意味的階層性があり、後置形容詞は quality、size、shape、color、nationality を表す形容詞で、quality と size は shape、color、nationality より統語的に低い位置にあると仮定する。このように仮定することで、3.2 節で指摘した問題点である direct modification AP での任意の NP 移動と snowballing 移動が不要であると主張する。最後に、フランス語のいくつかの統語的事実から、quality と size は shape、color、nationality より統語的に低い位置にあり、quality と size はどちらか一方に限られると提案する。

英語の名詞を修飾する形容詞の語順について、Quirk et al (1985) が初期分析したものからさらに発展させ、Sproat and Shih (1991) は英語において複数の形容詞が名詞を修飾する時、(16)のように AOR と定義し、形容詞には階層性があると仮定している。

(16) AOR (Adjective Ordering Restriction)

quantity>quality>size>shape>color>nationality

Sproat and Shih (1991) は、英語の形容詞のように AOR に従う形容詞を direct modification と呼び、AOR に従わない形容詞を indirect modification と呼んでいる⁶。

Sproat and Shih (1991) の仮定に従い、本稿ではフランス語の形容詞修

飾構造について加筆し、フランス語の direct modification は quantity、quality、size で direct modification AP にあり、indirect modification は quality、size、shape、color、nationality で reduced RC にあると仮定する⁷。さらに、フランス語の quality と size が indirect modification である場合、shape、color、nationality より統語的に低い位置にあると仮定する⁸。

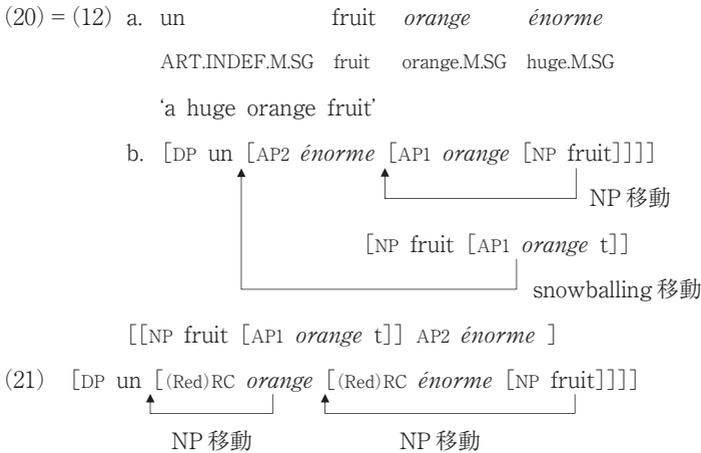
- (17) フランス語の direct modification と indirect modification
- a. direct modification は quantity、quality、size であり、AOR に従い、direct modification AP にある。
 - b. indirect modification は quality、size、shape、color、nationality であり、AOR に従わず、reduced RC にある。Quality と size は shape、color、nationality より統語的に低い位置にある。また quality と size は、reduced RC においてどちらか1つに限られる。

(17)の仮説に従い、フランス語の(6b)、(12b)、(13b)の派生を再考する。Cinque (2010) が仮定するフランス語の形容詞修飾構造では、3.2 節で指摘したように複数の形容詞がある構造では、(6b)と(15)の2つの派生が考えられるという問題点があった。

- (18) = (6) a. un *joli* *gros* *ballon rouge*
 ART.INDEF.MSG beautiful.MSG big.MSG ball red.MSG
 'a beautiful big red ball'
- b. [DP un [AP3 *joli* [AP2 *gro* [AP1 *rouge* [NP *ballon*]]]]] NP 移動
- (19) = (15) [DP un [(Red)RC *rouge* [AP2 *joli* [AP1 *gro* [NP *ballon*]]]]] NP 移動

(19)のように color である *rouge* 'red' は reduced RC にあるため、direct modification AP よりも統語的に高い位置にあり、NP は reduced RC の指定部へ移動する。(18)のように Cinque (2010) がロマンス語系言語で仮定する direct modification AP における任意の NP 移動は、仮定する必要がない。

(17)の仮説から mirror-image の語順を分析すると、(12b)の派生は(21)である。



(21)のように color である *orange* 'orange' と size である *énorme* 'huge' は reduced RC にあり、color は size より統語的に高い位置にある。NP はそれぞれの reduced RC の指定部へ移動する。(20b)のように Cinque (2010) で仮定していた snowball 移動を仮定する必要がない。

(17)の仮説から英語の形容詞と同じ語順のフランス語の後置形容詞を分析すると、(13b)の派生は(23)である。

- (22) = (13) a. *une voiture blanche italienne*
 ART.INDEF.FEM.SG car white.FEM.SG Italian.FEM.SG
 'a white Italian car'
- b. [DP *une* [(Red)RC *italienne* [AP *blanche* [NP *voiture*]]]]
 NP 移動
 [NP *voiture* [AP *blanche* t]]
 snowballing 移動
 [[NP *voiture* [AP *blanche* t]] (Red)RC *italienne*]
- (23) [DP *une* [(Red)RC *blanche* [(Red)RC *italienne* [NP *voiture*]]]]
 NP 移動 NP 移動

(23)のように color である *blanche* 'white' と nationality である *italienne* 'Italian' は reduced RC にあり、NP はそれぞれの reduced RC の指定部へ移動する。(22b)のように Cinque (2010) が仮定していた snowball 移動を仮定する必要がない。(17)の仮説から分析することで、Cinque (2010) で仮定していた direct modification AP における任意の NP 移動と snowballing 移動は、必要がないと主張する。(24)のように Chomsky (1995) で提案されたミニマリストプログラムの派生の経済性から、本稿で提案する派生は最適性を満たしているといえる。

(24) 派生の経済性

統語演算、すなわち派生は最も経済的なもの、効率的なものでなければならない。

派生の経済性から NP が AP を随伴し移動する snowballing 移動を含む派生より、本稿が提案する NP 移動のみの派生が経済的な派生である。

次に indirect modification である quality と size が、shape、color、

nationality より統語的に低い位置にあることを見ていく。Lamarche (1991) の mirror-image の語順を、(17)の仮説に従い再考する。

(25) フランス語の後置形容詞の語順

NP + AP₁(shape, color, nationality) + AP₂(quality, size)

(26) = (8) a. un fruit [*orange*]₁ [*énorme*]₂

ART.INDEF.M.SG fruit orange.M.SG huge.M.SG

'a huge orange fruit'

b. [*huge*]₂ [*orange*]₁ fruit

(27) = (9) a. une femme [*canadienne*]₁ [*enceinte*]₂

ART.INDEF.FEM.SG woman Canadian.FEM.SG pregnant.FEM.SG

'a pregnant Canadian woman'

b. [*pregnant*]₂ [*Canadian*]₁ woman (Lamarche 1991 : 223)

(26)と(27)においてAP₁の *orange* 'orange' は color、*canadienne* 'Canadian' は nationality であり、AP₂の *énorme* 'huge' は size、*enceinte* 'pregnant' は quality である。(25)のようにフランス語の後置形容詞において、size と quality は shape、color、nationality より統語的に低い位置にある。Size と quality が shape、color、nationality より統語的に低い位置にあることは、(28)のように、size と quality が統語的に高い位置にあると非文となることから明らかである。

(28) *une maison {*magnifique* /*énorme*}

ART.INDEF.FEM.SG house beautiful.FEM.SG huge.FEM.SG

{*blanche* /*carrée* /*française*}

white.FEM.SG square.FEM.SG French.FEM.SG

'a {beautiful/huge}|white/square/French| house'

さらに size と quality がある reduced RC は、一つに限られるようだ。
 (29)のように、size と quality が reduced RC に共起すると非文となる。

- (29) a. *une maison *magnifique* *énorme*
 ART.INDEF.FEM.SG house beautiful.FEM.SG huge.FEM.SG
 ‘a beautiful huge house’
- b. *une maison *énorme* *magnifique*
 ART.INDEF.FEM.SG house huge.FEM.SG beautiful.FEM.SG

また、(30)のように2つの quality の形容詞が reduced RC に共起すると非文となる。

- (30) a. *un château *magnifique* *splendide*
 ART.INDEF.M.SG castle beautiful.M.SG splendid.M.SG
 ‘a beautiful splendid castle’
- b. *un château *splendide* *magnifique*
 ART.INDEF.M.SG castle splendid.M.SG beautiful.M.SG

最後に(31)と(32)のようにフランス語の付加形容詞に、前置形容詞と後置形容詞両方として使用でき、意味が異なる形容詞がある。

- (31) a. un *pauvre* homme
 ART.INDEF.M.SG pitiable.M.SG person
 ‘a pitiable person’
- b. un homme *pauvre*
 ART.INDEF.M.SG person poor.M.SG
 ‘a poor person’

- (32) a. *une sale femme*
 ART.INDEF.FEM.SG nasty.FEM.SG woman
 'a nasty woman'
- b. *une femme sale*
 ART.INDEF.FEM.SG woman dirty.FEM.SG
 'a dirty woman'

同じ形容詞が名詞の前に置くと、*pauvre* 'pitiable' や *sale* 'nasty' という主観的な形容詞であり、名詞の後ろに置くと *pauvre* 'poor' や *sale* 'dirty' という誰が見ても同じように判断できる客観的な形容詞である。(33a)と(34a)のように主観的な形容詞が前置形容詞、客観的な形容詞が後置形容詞として共起することができるが、(33b)と(34b)のように後置形容詞として共起することができない。

- (33) a. *un pauvre homme pauvre*
 ART.INDEF.M.SG pitiable.M.SG person poor.M.SG
 'a pitiable poor person'
- b. **un homme pauvre pauvre*
 ART.INDEF.M.SG person pitiable.M.SG poor.M.SG
 'a pitiable poor person'
- (34) a. *une sale femme sale*
 ART.INDEF.FEM.SG nasty.FEM.SG woman dirty.FEM.SG
 'a nasty dirty woman'
- b. **une femme sale sale*
 ART.INDEF.FEM.SG woman nasty.FEM.SG dirty.FEM.SG
 'a nasty dirty woman'

(29)、(30)、(33b)、(34b)が非文である現象から、size と quality がある reduced RC は、一つに限られると提案する。

5. 結 論

本稿ではフランス語の形容詞修飾構造において、Sproat and Shih (1991) で提案された AOR に従い、フランス語の形容詞について加筆したものとして、フランス語の direct modification は quantity、quality、size で direct modification AP にあり、AOR に従うが、indirect modification は quality、size、shape、color、nationality で reduced RC にあり、AOR に従わず、quality と size は shape、color、nationality より統語的に低い位置にあると提案した。Cinque (2010) で仮定されていたロマンス語系言語にだけにある任意の direct modification AP の NP 移動と snowballing 移動を仮定する必要性がなく、本稿で提案する派生は、派生の経済性により最適であることを見た。最後に、いくつかの統語的事実から indirect modification である size と quality は、reduced RC に一つに限られると提案した。

註

- 1 Abney (1987) が、DP 構造とは determiner を主要部とし、その補部に NP が生起すると提唱した。生成文法では、名詞句構造は DP 構造であると広く受け入れられている。
- 2 Pollock (1989) が提唱したフランス語において義務的に IP 内で Verb が Inflection に移動するが、一方英語は Verb が Inflection に移動しないという仮説と並行して、Cinque (1994) がロマンス語は DP 内において義務的に名詞が Number に移動するが、英語は弱い Number Phrase のため、前置形容詞は名詞が Number に移動しないと提案した。
- 3 Cinque (2010) において、N 移動分析 (主要部移動) ではロマンス語の mirror-image の語順を説明することができないとしている。Mirror-image の語順を説明するための snowballing 移動は、NP を伴った移動であるためである。

本稿ではN移動分析ではなく、NP移動分析を用いる。

4 Cinque (2010) では、(i)のように形容詞を意味解釈により direct modification と indirect modification に分類している。

- (i) a. Direct modification: individual-level, nonrestrictive, modal, nonintersective, absolute, specify, evaluative, and NP dependent
 b. Indirect modification: stage-level, restrictive, intersective, relative to a comparison class, comparative reading, non-specificity-inducing, epistemic, and discourse anaphoric.
- (ii) a. The *navigable* rivers are all inaccessible (ambiguous)
 ‘The rivers are not generally navigable’ (individual-level)
 ‘The rivers that are not temporary at this time of year navigable’ (stage-level)
 b. The rivers *navigable* are all inaccessible
 *‘The rivers are not generally navigable’ (individual-level)
 ‘The rivers that are not temporary at this time of year navigable’ (stage-level)

(ii)のように英語では *navigable* は前置後置形容詞両方で使用できるが、(iia)のように direct modification は、「いつも航行可能ではない」という individual-level と「一年の内この時だけ航行可能ではない」という stage-level の両方の意味に解釈できる。一方(iib)のように indirect modification は、stage-level の意味しか解釈できない。(iia)は direct modification であり、(iib)は indirect modification としている。イタリア語では、形容詞位置と意味解釈が逆になると提案している。

5 Cinque (2010: 72) で、イタリア語は nationality の APが direct modification AP にあると義務的にNP移動するが、direct modification AP に他の形容詞がある場合は、NP移動が任意であると指摘している。

6 Sproat and Shih (1991) は、フランス語の後置形容詞はAORに従わず、(i)のように複数の後置形容詞が名詞に付加するときには、接続詞 *et* ‘and’を入れることができる現象から parallel modification と呼んでいる。

- (i) chien moyen et blanc
 dog medium.M.SG and white.M.SG
 ‘medium white dog’ (Sproat and Shih 1991: 585)

7 フランス語の前置形容詞は、数量詞、2音節以下で日常的に使用頻度が高い形容詞 (*bon* ‘good’, *petit* ‘small’, *jeune* ‘young’)、強い主観性を表すものがある。

(ia)と(ib)のように、付加形容詞で名詞の前後の位置が自由な形容詞が、(ii)の

ように主観的判断や印象・感情的反応を示す時には名詞の前に置かれる。

- (i) a. un homme *méchant*
 ART.INDEF.MSG person bad.MSG
 'a bad person'
- b. un *méchant* homme
 ART.INDEF.MSG bad.MSG person
 'a bad person'
- (ii) Tu es un *méchant* garçon.
 NOM.2.SG COP.IND.SG.PRES ART.INDEF.MSG bad.MSG boy
 'You are a bad boy!' (目黒 2015 : 80)

8 フランス語の形容詞修飾構造の先行研究では、後置形容詞の語順について議論されている。Laenzlinger (2005) は *shape*、*color*、*nationality* は後置形容詞であり、AOR に従うと仮定し、NP 移動と *snowballing* 移動で分析している。Bouchard (1998) と Knittel (2005) はフランス語の後置形容詞の *shape* と *color* は、(ia) と (ib) のようにどちらも文法的であり、AOR には従わないと提案している。

- (i) a. les lignes *parallèles colorées*
 ART.DEF.PL lines parallel.PL colored.PL
 'the colored parallel lines'
- b. les lignes *colorées parallèles*
 ART.DEF.PL lines colored.PL parallel.PL
 'the parallel colored lines' (Knittel 2005 : 198)

参考文献

- Abney, Steven Paul. 1987. The English noun phrase in its sentential aspect. Doctoral dissertation, MIT, Cambridge, Mass.
- Bouchard, Denis. 1998. The distribution and interpretation of adjectives in French: A consequence of Bare Phase Structure. *Probus* 10 : 139-183.
- Chomsky, Noam. 1995. *The Minimalist Program*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Cinque, Guglielmo. 1994. On the evidence for partial N-movement in the Romance DP. In *Paths Towards Universal Grammar*, ed. Guglielmo Cinque, Jan Koster, Jean-Yves Pollock, Luigi Rizzi and Raffaella Zanuttini, 85-110. Georgetown: Georgetown University Press.
- Cinque, Guglielmo. 2010. *The Syntax of Adjectives*. Cambridge, Mass.: MIT Press.

- Kittel, Marie Laurence. 2005. Some remarks on adjective placement in the French NP. *Probus* 17 : 185-226.
- Laenzlinger, Christophor. 2005. French adjective ordering: Perspectives on DP-internal movement types. *Lingua* 115 : 645-689.
- Lamarche, Jacques. 1991. Problems for N-movement to NUM-P. *Probus* 3.2 : 215-236.
- Pollock, Jean-Yves. 1989. Verb movement, Universal Grammar and the structure of IP. *Linguistic Inquiry* 20 : 365-424.
- Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech, and Jan Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- Sproat, Richard and Chinlin Shih. 1991. The cross-linguistic distribution of adjective ordering restrictions. In *Interdisciplinary Approaches to Language. Essays in Honor of S. Y. Kuroda*, ed. Carol Georgopoulos and Roberta Ishihara, 565-593. Dordrecht : Kluwer.
- 目黒士門. 2015. 『現代フランス広文典 [改訂版]』東京 : 白水社.